

心のケア活躍 園芸療法士

兵庫の専門学校 9月開講

米協会と連携 資格へ道



植物の話で盛り上がる公文康理事長と高齢者たち
—神戸市の「適寿リハビリテーション病院」で

植物を育てること、高齢者や病氣、障害のある人の症状の改善を目指す園芸療法の指導者を育てようと、兵庫県北淡町（淡路島）の専門学校、県立淡路景観園芸学校（熊谷洋一校長）で今年9月、専門課程「園芸療法プログラム」（1年間）が始まる。米国園芸療法協会と授業内容などについて連携。協会が認定する園芸療法士の資格取得に必要な講座や実習が実施されるカリキュラムにする。

「きれいな色になったな」「大切に育ててきたかいがあったわ」

神戸市長田区の「適寿リハビリテーション病院」の一室で、デイケアに通うお年寄りらは机に並んだ鉢植えの花を見ながら笑顔を見せた。

同病院は88年3月の開設時から高齢者や障害者のケアに園芸療法を取り入れている。敷地約3千平方メートルのうち花壇が約3

30平方メートルを占め、窓際や廊下に花が並ぶ。

「年中花が絶えることはありません」と病院の

公文康理事長（67）。園芸療法の効果を示すデータはないが、植物の観察記録を機に日記をつけ始めた。余白に花を描き始めた。余白に花を描き始めた。余白に花を描き始めた。

「園芸療法に参加する人の表情はとて面白い。いかに園芸と療法を科学的に結びつけるのかが重要なので、園芸療法士は必要だ」と期待する。

プログラムでは、園芸療法の手法や計画作成法、リハビリや介助の基礎知識の講座に加え、福祉施設などで入所者と植

物育てる実習も予定する。

淡路景観園芸学校は今、プログラムが米国園芸療法協会の定める園芸療法士の学士号になるよう協議している。提携されること、修了生がその後1年間、実務を積み重ねるという。資格を希望する修了生には実習先などの個別相談にも応じる方針だ。

定員は15人。対象は①作業療法士や理学療法士など医療・福祉関連国家資格の取得者②園芸、造

園関連の短大以上の卒業生③大卒者—ら。

96年に日本人で初めて、協会から園芸療法士の資格を得た菅由美子さん（41）は00年8月、「人と自然社」（京都市左京区）を設立、医療・福祉施設での園芸療法などのコンサルタント業務をしている。菅さんは園芸療法士の役割について「福祉の専門知識を持った園芸療法士は、障害者などに必要な治療法を必要なのかを計画的に考えられ、『いやし』以上の効果が期待できる」と指摘する。

淡路景観園芸学校の景観園芸専門課程（2年）で園芸や空間デザインを学んだ森愛さん（38）は今年、「人と自然社」に入社する。

森さんは同校に入学するまで7年間、鳥取県の私立高校で国語の教師をした。野菜や果物を育てる授業だと生徒の表情が生き生きしていることに驚いたのが、入学のきっかけだった。「楽しそうに植物を育てる生徒の姿に、園芸の可能性を感じました。園芸療法士の資格を取ることも考え、福祉や園芸の勉強を続けたい」

平成14年3月18日(月)
朝日新聞 朝・夕版
14 頁

花博記念事業協会

夢舞台温室の職員26人募集

財団法人「淡路花博記念事業協会」は、淡路夢舞台温室（東浦町夢舞台）の植物管理や展示をする職員二十六人を募集している。対象は、中高年の失業者や学卒未就職者。雇用期間は四月一日から半年間。給与は月額約十三万

円。交通費は支給される。勤務時間は①午前八時十五分—午後五時②午前八時半—午後五時十五分③午前九時十五分—午後六時（休憩四十五分）。申し込みは同温室へ0799・74・1200

平成14年3月18日(月)
神戸新聞 朝・夕版
24 頁 あわじ版